

株式市場新聞

1 第381号

日経平均株価

3万8683円93銭

▼19円58銭(前日比)

TOPIX

2755.03

▼2.20(前日比)

www.marketpress.jp

2024
6/10
月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



宇宙関連へ関心高まる

夏のIPOシーズンがスタート

夏のIPOシーズンがスタートした。その先陣を切った東証グロース市場に公開したアストロスケールホールディングス(186A)は宇宙関連として前評判が高く、公開価格850円を50.7%上回る1281円で初値が生まれ、安値更新を続けていたグロース銘柄のカツ入れ役として期待されている。今後、7月2日のPRISM Bio Lab(206A)まで11銘柄が公開を控えており、セカンダリーとしても狙える注目銘柄をピックアップした。

アストロスケールHD公開

在では
318
5円ま



宇宙は壮大なテーマ

アストロスケールスペースデブリ除去
ホルディングスは人や人工衛星寿命延長、
点検・観測などの軌道上サービス
の軌道上サービス事業を展開し
ている。因みに同じ宇宙関連で
小型SAR衛星の開発・製造を
行うQPS研究所(5595)
は昨年10月31日に公開し、
公開価格390円に対して初値
は860円、現
で上昇しており、初
値で購入すれば3.
7倍になっている。
世界的に開発競争が
活発化している宇宙
関連として宇宙ベン
チャーのispace
(9348)を含め
て今後も物色されそ
うだ。
アストロスケール
HDの公開に続き、
期待が高いのは18
日に東証グロースに
公開するインテグ
ル(192A)。

日経平均の日足チャート



同社は中小規模のM
&Aに特化しており、
コンサル1名による
一気通貫で完全報酬
で行うのが特徴。1
9日に公開するライ
スカレー(195A)
は自社のSNSデー
タ分析ツールを駆使
した企業のマーケティング
支援を行って

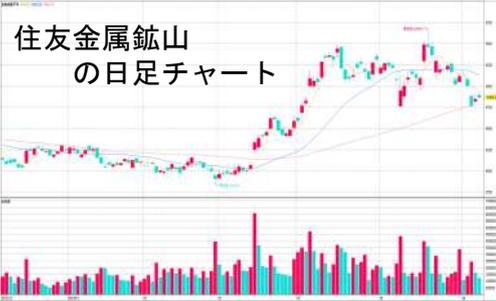
おり、インテグ
ルと同様に高初値が
期待できそうだ。
その他では11日
公開で医療機関等に
対する経営サポート
事業を行うDMグル
ープ(189A)。
医療系コンサルは競
合が多いものの、地
方病院では経営難の
ところが多くニーズ
は多い。27日公開
の豆蔵デジタルホ
ルディングス(20
2A)は再上場案件
で高初値は期待薄な
がAIコンサルは
注目されよう。

5月第3週の動意銘柄

非鉄金属買い進む

上昇傾向強まる金価で思惑

週明け20日、住友金属鉱山(5713)や三菱マテリアル(5711)の非鉄金属株が買い進まれた。ニューヨーク商品取引所(COMEX)で金先物価格がほぼ1%の上昇となった。インフレ鈍化からFRBによる年内利上げ観測が再燃するな



かで、低金利下で上昇傾向が強まる金価格の上昇思惑が関連株買いを誘った。

C&Fロジ買収伝わる

C&Fロジホールディングス(9099)がストップ高。SGホールディングス(9143)が同社の買収に乗り出すと伝わった。同社株にはAZI(9099)と和ホールディングス(9090)が1株30000円でTOBを実施中だが、SGHDは現株価にプレミアムを付けてTOBをする方針で、買付け価格の大幅引き上げへの思惑から買いを集めた。同社ではAZI(9099)とのTOBへの意見表明を「留保」、対抗提案を他社から受けていることも明らかにしている。

MS&AD 65%最終増益

21日、MS&ADインシユアランスグループホールディングス(8725)が急伸。同25年3月期の業績について、連結純利益で前相比65.2%増の6100億円と大幅な増益を見込み、実質増配、発行済み株式総数の8.2%にあたる1億3000万株、1900億円を上限とする自

アイズは特許取得

アイズ(5242)がストップ高。広告業界のプラットフォーム「メディアアリーダー」に関する技術の特許を取得したと発表した。メディアアリーダーはマーケティング担当者・広告代理店と媒体社・マーケティングサービスクルを結ぶ、広告業界向けの検索サイト。

日本KFCは買収

株式数32万9000株。日本KFCホールディングス(9873)ストップ高。米投資ファンドのカーライル・グループが同社を買収すると発表した。買収額は約1300億円、TOBと大株主の三菱商事(8058)などから株式を買い取り、9月をめどに完全子会社化する計画で、TOB価格6

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は小幅ながら3週間ぶりに反発しました。日経平均は前の週から196円上昇しています。米雇用指標が予想を下回りインフレ懸念が後退、長期債利回り低下を受けた米ハイテク株高がフォロワーになる一方、日銀の金融引き締めの観測が上値を抑え、前の週に続く感の強い展開になりました。今週は13日、14日に日銀の金融政策決定会合開催され、週末SQで、引き続き様子見ムードが強く、米10年債利回りは4.2%まで低下しておくとともに、ハイテク・グロースの本格反騰に備えたい考えです。花咲翁

ハイテク本格反騰に備え

前週は半導体関連の一角にナンピンを入れましたが、売込まれた中小型株も視野に入れ、ハイテク・グロースの本格反騰に備えたい考えです。花咲翁



500円にサヤ寄せするかたちで水準を切り上げた。同社もTOBに賛同しており、TOB完了後は上場廃止になる。

マツモト同人誌印刷再参入

22日、マツモト(7901)がストップ高。この日の同

社の公式Xで同人誌印刷の再参入を検討と配信したことが好感された。同社は2018年まで同人誌印刷を手がけている。2024年の新しい形での再参入を検討しているとしており、収益拡大を期待した買いを集めた。

YEデジタルがS高

豊田織機と業務提携を発表

22日、YEDIGITAL(2354)がストップ高。

豊田自動織機(6201)との業務提携を発表した。システム開発では豊田自動織機が注文を受けた物流ソリューション

案件のシステム関連領域でのDX化に貢献していく。マテハン機器などハードを提供する豊田織機と倉庫自動化システムなどのソフトを手掛ける同社との関係強化により、高いシナ



ランシシステムS高で新値

ランシシステム(3326)がストップ高。同社は22日の取引終了後、国内No.1の広告業界のプラットフォーム「メディアアリーダー」で、案件マッチング機能の提供リード数が累計1500件を突破したと発表した。累計提供リード数は23年4月から24年5月現在では約50倍増加と破竹という。100万円以上

アイズ提供リード50倍に

23日、アイズ(5242)がストップ高。同社は22日の取引終了後、国内No.1の広告業界のプラットフォーム「メディアアリーダー」で、案件マッチング機能の提供リード数が累計1500件を突破したと発表した。累計提供リード数は23年4月から24年5月現在では約50倍増加と破竹という。100万円以上

Runーマルチキャリアコネクト「RMCI100」を発売したと発表した。クラウド上に構築されたSIMバンクから、SIM場所に最適用場所に応じて最適なSIM情報取得、国や地域、通信キャリアに縛られないデータ通信が可能で販売増と収益貢献が期待された。

の予算規模の大きい提供リード数が増えていることから、先日特許を取得したセグメント開示機能において、予算規模の大きいリードに絞った掲載社利用の需要の増加が期待できる。

日産証券分売で需給懸念

日産証券グループ(8705)が大幅下落。同社は22日の取引終了後、250万株の立会外分売を行うと発表したことから需給悪化懸念が台頭した。分売予定期間は5月30日(6月30日まで)。

+ 技術力 立花エレテックは 電機・機械・電子・情報の「技術商社」です。

Internet of Things 機械間通信
IoT/M2M技術で 製造業の生産性向上を支援!



当社のホームページはこちら



株式会社 立花エレテック
 TACHIBANA ELETECH

東証プライム市場(証券コード:8159)
 本社 / 〒550-8555 大阪市西区西本町1-13-25 TEL:06-6539-8800
 支社 / 東日本・中部
 支店 / 東関東・北関東・神奈川・三河・東海・北陸・三重・滋賀・南大阪・神戸・姫路・広島・四国・九州
 海外 / 香港・シンガポール・台湾・上海・タイ・マレーシア
 北京・深圳・武漢・大連・青島

事業内容 / FAシステム事業・半導体デバイス事業
 施設事業・MS事業・海外事業



半導体関連軒並み高 エヌビディア予想上回る好決算

0)、など半導体関連株が軒並み高。米エヌビディアの2ヶ月期決算はAI向け半導体需要急増で、売上高が前年同期比3・6倍、最終利益

23日、ディスコ(614)とTOWA(631)が大幅で最高値を更新したほか、アドバンテスト(685)やレ

7・3倍、EPSは5・6倍と大幅に拡大、5ヶ月期も売上280億ドル前後と市場予測を上回っ

た。株価は時間外で7%を超す大幅高で1000ドル大台に乗せており、関連銘柄に買いが広がった。

エーアイAIで音声合成

週末24日、エーアイ(4388)がAIと連携して高速に音声合成を可能にする音声合成ソリューション「入力ストリーミング音声合成API」を開発、mi

統合を予定しているフュートレック(2468)も高い。グッドコムA大幅下方修正

グッドコムAセツト(3475)が大幅に4日続落。24年10月期第2四半期累計の連結業績を、売上高で194億9600万円から113億5100万円(前年同期比6・0%増)、営業利益で12億6100万円

ibo(東京都渋谷区)に採用されたと発表した。サーバー設置型製品を24年上期に発売予定で、早期収益貢献を期待された。同社と経営

行する暗号資産Nippon Idol Token(NIDT)とアイドル創造プロジェクト「IDOL3・0 PROJECT」にかかるWEB3・0領域に関

5月第5週の動意銘柄

東京通信ストップ高
週明け27日、東京通信グループ(7359)がストップ高。子会社のTETとオーバース、cainbookが、オーバースが発

連する施策を共同で展開すると発表した。メタバース空間内のデジタルツインを活用したオーバース所属アイドルグループWHITESCORPIONのライブを試験的開催を検討。WHITESCORPIONは48グループや坂道シリーズなど国民的アイドルを手がけてきた秋元康氏が総合プロデューサーを務める

から8億6900万円(同32・2%減)へ大幅下方修正した。キヤスタ生成AIで合併

活用したプロダクト開発とサービスの合併事業で基本合意書を締結すると発表した。労働バイアスの解除と人の非生産的労働からの解放に向けた事業展開を行う。

新アイドルグループ。オプティマス稀薄化懸念
オプティマスグループ(9268)が大幅続落、年初来安値を更新した。前週末取引終了後、1043万4800株の公募増資とオーバースアロットメントによる156万5200株の売出を発表したことで、希薄化を懸念した売りに値を崩した。増資により発行される株式数は最大で発行済み株式数の18・5%になる。

膠着6週間

先週の東京株式市場は小幅に反発しました。日経平均は3月22日に4万1087円高値から4月19日に3万6733円安値まで調整後、中間反騰へと移行しました。5月以降は3万8000円台で6週間の膠着相場となっており、その間の上下幅は週足終値ベースでは558円幅内での取引となっています。

さて、今週は米FOMC、日銀会合が開催され、週末はメジャーSQを迎えます。これら一連のイベントを通過することでBOX相場放れのトレンドが発生する可能性があり、上下どちらに放れるのか注目段階を迎えることになりそうです。3万8800円近辺を走る13週線を突破すれば年初来高値を目指す新たな上昇相場への足掛かりとなり、逆に3万8000円割れとなる場合は4月安値に対する二番底形成か三段下げへと繋がるかを見極める局面となりましょう。

日々勇太郎



転ばぬ先のテクニカル

郵船が大幅続伸

社長インタビュー買い手掛り

27日、日本郵船(9101)が大幅

の決算発表をPBRが1倍を超えた状態

で迎えた」と説明すると伝えており、収益上振れと積極的な還元を期待した買い手が向かった。川崎汽船(9107)も高い。

電子版が掲載した曽我貴也社長へのインタビュー記事が買い手掛かりになったようだ。日本郵船がバリュウ(割安)株からの脱却を図る。2025年3月期は純利益が前期比7%増の2450億円を見込む。1000億円を上限とする自社株買いも実施する。安定した成長と株主還元

の国際共同第三相試験の解析結果の速報で、主要評価項目である床からの立ち上がり

り時間を速度で評価したところ、本剤投与群とプラセボ投与群との比較では統計的な有意差は認められなかったと発表された。今後、さらに詳細なデータ解析、結果に影響をおよぼす要因の検討を続けるとしている。

公開価格32%上回る
学びエイドの初値(184A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格970円を32.2%上回る1282円で初値が生まれた。同社はインターネットによる教育サービスの企画開発・提供を行う。

ユーザーゲームなどの腕を競う「eスポーツ」の普及、振興や選手強化を推進することを盛り込んだと伝わったことで、eスポーツイベントを企画・運営する同社にビジネスチャンス拡大を期待した買い手が向かった。経済財政運営の指針「骨太方針」への反映を指すとしている。

東北電力大幅続伸

川原原発安全対策工事完了

28日、東北電力(9506)が大幅続伸。女川原子力発電所2号機

の安全対策工事が完了したと発表した。9月頃を想定している再稼働に向けて、燃料装荷や原子炉起動に係る各種試験・検査、作業などを行うとしており、原発再稼働に伴う収益改善が期待された。

29日、トリプルアイズ(5026)が急伸。グループ会社のゼロフィールドが国内5拠点目のデータセンターを新潟県湯沢町に開設すると発表したことが買い手掛かりになった。豊富な雪や河川水、冷涼な外気などを活用したコンテナ型のデータセンターを建設する計画で、東京から新幹線で約1時間30分とアクセスが良く、地盤が安定しており災害リスクも低いことか

GLOEはeスポーツ振興
GLOE(9565)が急伸、一時ストップ高まで買われた。自民党のスポーツ立国調査会が党本部で開いた会合で提言をまとめ、コンピ

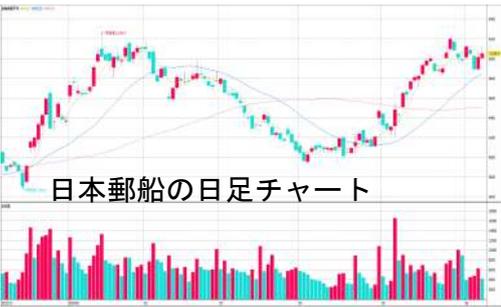
エンジニア自動車関連商品の共同開発、カーボンニュートラルに向けた機能材開発、徳島事業所のリストラクチャリングなど、事業ポートフォリオを最適化することで目標を達成する構え。

トリプルアイズ急伸

国内5拠点目のDC開設

公開価格32%上回る
学びエイドの初値(184A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格970円を32.2%上回る1282円で初値が生まれた。同社はインターネットによる教育サービスの企画開発・提供を行う。

ユーザーゲームなどの腕を競う「eスポーツ」の普及、振興や選手強化を推進することを盛り込んだと伝わったことで、eスポーツイベントを企画・運営する同社にビジネスチャンス拡大を期待した買い手が向かった。経済財政運営の指針「骨太方針」への反映を指すとしている。



日本新薬(4516)がストップ安。筋ジストロフィー治療剤「ビルトラルセン」

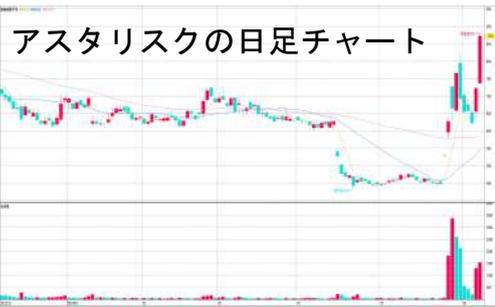
日本新薬ストップ安

30日、阿波製紙(3896)がストップ高。新中期経営計画で、最終年度の26年3月期に売上高213億円(24年3月期161億円)、営業利益7億円(同3億5000万円)と意欲的な目標を掲げた。分離膜支持体拡販や脱

半導体関連下げ目立つ
アドバンテスト(6857)が大幅に反

トランス開発案件受注
トランス・オン・プロダクト(6696)が急反発。システム開発案件の受注額を2900万円。

落したほか、レーザーテック(6920)や東京エレクトロニック(8035)など半導体関連株の下げが目立った。米10年債利回りが4.6%台まで上昇したことを嫌気、米国株市場でハイテク株が売られ、SOX指数が1.8%安となった流れが波及した。



アスタリスクがストップ高

賞味期限管理アプリなどへ期待

アスタリスク(6522)は、30日、賞味期限管理アプリ「SdcO(エスデオ)」や顔認証アプリ「ドウェア」として、セキュリティを強化した「ASREHa Promer/GOMA Annual」の2機種などを発表、業容拡大期待が高まった。特別

にSdcOは現場作業の負担軽減と賞味期限など適正に管理、SDGs目標に掲げられていた食品ロスの削減に繋がる。

関へ19%強の自社株買

週末31日、関西ペイント(4613)が急伸、年初来高値を更新した。自己株式取得枠の設定を発表した。上限4000万株(発行済株式総数に対する割合19.01%)、または800億円で、大規模自社株買いによる株価浮揚効果を期待した買いを集めた。取得期間は5月31日〜25年5月30日。資本効率の向上、株主還元の拡充を図るため。

サイボウズ価格体系改定

サイボウズ(4776)が大幅高。クラウドサービス版「サイボウズOffice」、**「Garoon(ガールーン)」、**「メールワイズ」の各サービスの価格体系とkintone、メールワイズの最小契約ユーザー数を改定すると発表した。11月1日からkintoneライトコースで780円/1ユーザーから1000円/1ユーザーへ値上げとなる。

名鉄潜在的稀薄化警戒

名古屋鉄道(9048)が急落、年初来安値を更新した。2033年満期ユーロ円CB250億円、2034年満期ユーロ円CB250億円の発行を発表したことで、潜在的稀薄化

松井証券

今こそ始めるデイトレード

松井証券の一日信用取引

手数料0円 金利・貸株料0~1.8%

取引コスト

プレミアム空売り

独自サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら

marketpress.jpのバナーをクリック

6月第1週の動意銘柄

ヤマザキがストップ高

ナガセインテと業務提携

週明け3日、ヤマザキ(6147)がストップ高。ナガセインテグループとの業務提携を発表した。ナガセインテは超精密・微細加工で高い技術力を有し、各種工作機械の製造販売や加工技術とシステムソリューション

トリケミカル24%減益

トリケミカル研究所(4369)が急落。5年1月期第1四半

企業観察

ハリマ化成G(4410)

第1四半期上々の滑り出し

ハリマ化成グループ(4410)は業績V字型回復へ向け収益再建が順調に進んでいる。24年3月期は値上げと合理化効果により、第2四半期を底に大幅に赤字幅を縮小して着地。25年3月期は連結売上高1020億円(前期比10.5%増)と2ケタ増収で100億円大台乗せ、営業利益21億円(前期2億1100万円の赤字)と黒字浮上を見込むが、原料とエネルギー価格が高止まりするなか、第1四半期は上々に滑り出しているようだ。

製紙用薬品は国内と中国が厳しい中でも堅調に推移しており、環

V字型回復へ収益再建進む

境意識の高まりを背景に古紙の利用が進み始めた北米でダンボール向け紙力増強剤を拡販するなど需要分野をとらえて着実に売り上げを伸ばしている。電子材料はんだ材料事業買収効果で売上げ規模が倍増、自動車向けは海外ユーザーが広がり、半導体向けはフォトソルダレジストが伸び「消費地に合わせた事業運営の最適化も進めている」(会社側)という。

ローターは製品構成の見直に加え、アルゼンチンのガムロジンを活用するなどグループ内原料調達により収益基盤を強化、本格的な需要回復へ態勢を整えている。

銀行株10年物金利低下

4日、三菱UFJフィナンシャルグループ(8306)や千葉銀行(8331)など銀行株が軒並み値を崩した。財務省が実施した10年物国債の入札が強

き時間おしごとサービスマルカリアハロで、タクシー・ライドシェア事業の運

営を行うnewmoが大阪でのライドシェア事業開始に向けて実施する研修への参加者の求人募集を開始したと表した。事業開始に向けて研

修への参加者を募集することで、それぞれのライフスタイルに合わせて「だれでも、すぐに、かんたんに」働くことができる環境を構築する。

サーキュラーショー

サーキュラーショー(7379)がストップ高。クラウドワークス(3900)、PKSHATEC(hnoioogy(3993))と資本・業務提携すると発表した。人材の同社サービスへの送客やAI技術活用を進める。

日 casting S 高で新値

日本 casting (5609) がストップ高で

5日、ジイ・シイ企画(4073)が連続ストップ高。デジタルペイメントソリューションの世界的な大手プロバイダーのNP

Tの海外ビジネスを担当するグループ会社と決済端末に関する販売店契約を結んだと発表したことが引き続き材料視され、決意体験に革命を起すという。

SBBG1万円に王手

億円の受注が報じられた住友電工

日経平均は6日に3万9000円台に乗せましたが、今回も戻り待ちに押されて上げ幅を縮小し、週末7日は3万8600円を割れる場面がありました。

(5802)も注目されそうです。当欄で昨年から何度も紹介しておりますソフトバンクグループ(9984)が急騰し、3月高値を一気に抜き、6日に9929円まで買われる場面がありました。これは米国のアクティビスト(物言う投資家の)のエリオット・マネジメントが大量買いを行い、会社側に自社株買いを提案したためです。筆者が1万円台に乗せる銘柄として一貫推奨していましたが、ついに、王手となる水準まで買われました。上昇ピッチの速さに警戒感がでてくるのは当然で目先は3月高値の9400円割れ辺りまでの調整があるかもしれません。そこで再度、1万円に到達すると考えています。21日が株主総会です。それまでには1万円乗せよう。

大型受注の住友電工

株式市場新聞の名物コーナーが復活!

高野恭壽の株式情報



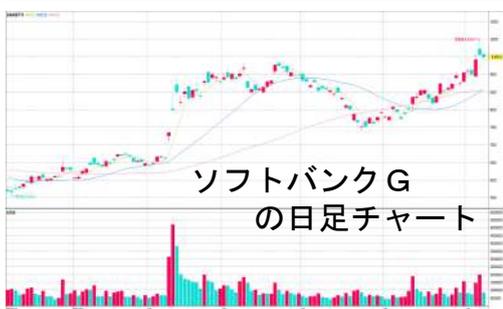
ドイツから送電線

電力株では関西電力などが買われて、送電線の需要増加がラフジクが堅調な動き。ドイツから送電線

を1万円に到達すると考えています。21日が株主総会です。それまでには1万円乗せよう。

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。公式ホームページ

<https://marketpress.jp/kabu-takano/>



ソフトバンクGの日足チャート

6日、ソフトバンクグループ(9984)が続騰。アクティビストとして知られる米ヘッジファンドのエリオット・マネジメントがソフトバンクグループ株を大量取得し、150億ドル相当の自社株買いを実施するよう要求している、と英フィナンシャル・タイムズの電子版が報じたことが材料視された。同社株について高野恭壽の株式情報

ソフトバンクG続騰

150億ドルの自社株買い要求

れでどや!!」で紹介

拭払透明不テクザレー

週末7日、レーザータック(6920)が急反発。スコピオン・キャピタルのレポートを受けて前日までの3日間で2割近い急落に近づいてきたが、ATCアクティビティがVパターンマスキ欠陥検査装置の売上と受注状況を公表、第3四半期時点で前期実績を大きく上回ったことを明らかにしたこと、レポートが指摘する不透明感が払拭され買戻しが優勢になった。

塩野義製薬(4507)が急落。R&

塩野義試験結果失望

しており、「1万円台に乗せる柄」として一貫推奨していましたが、ついに、王手となる水準まで買われた」としている。D説明会資料で肥満症治療薬S-309309のフェーズ2試験速報について、体重減少率が5%を超えなかったことを明らかにしたことが失望された。これまでに会社側は10%以上の体重減少が期待できるとしていた。かつこ(4166)がストップ高。オンラインマーケットを運営するイオンネクストに不正注文検知サービス「OPLEX」が採用されたことが発表された。レジットカード不正利用に対するセキュリティ強化が目的で、不正注文に対してより重層的な対策を行うこと、巧妙化する手口にも対応可能という。

日本株優位性を再評価

バリュエー銘柄の押し目狙い

日本株は5月以降方向感に欠ける動きが続いている。日経平均で年初安値から3月高値までの上昇幅約8400円に対し、4月にほぼ半値押ししの3700円割れで一旦底打ちした。

手掛かり難との解説だが典型的な日柄調整の局面だろう。昨年も日経平均は年前半の大幅上昇後の6月高値から10月末まで約4カ月の日柄調整を余儀なくされた。

デフレからの脱却期待など春先の上昇相場時と外部環境に大きな変化はない。急激な上昇の後だけに3〜4カ月程度の膠着相場は致し方ないだろう。5月は久々に米国株に対してアンダーパフォームになった。再度日本株の割安感が増していることは意識

光世証券

取締役 西川 雅博 氏



したい。

足元米国では5月のISM製造業景気指数が市場予想を下回り2カ月連続で低下した。労働需給でも緩和傾向が見られる。過去数カ月インフレ懸念と利下げ開始期待で揺れ動いてきた米金融市場だが、ここに来て利下げ後ずれ観測が後退している。6/5のカナダ中銀に続き、6/6にはECBが政策金利の0・25ポイント引き下げを決めた。予想通りとは言え2022年7月以来続いた金融引き締め政策の転換となり、米国利下げ開始を後押しするだろう。

相場展望

現状、米国株式市場では長期金利の低下や利下げ観測がリスク要因と捉えられている。最終利上げから政策金利がピー

クを維持する期間は、利下げ転換期待から株高になりがちだ。

実際、1980年代以降8回の金融引き締めのおかげでは内7回で最終利上げから株価は上昇した。全て似たような足取りで、一旦ピークを打つまで期間は平均で約270営業日である。今回の場合だと、昨年7月の最終利上げを起点に今年の8月あたりまでとなる。今後数カ月は実体経済と株価との乖離や

景気後退に対する見極めが重要だ。2007年のケースでは利下げ開始の一カ月後に株価はピークをつけている。

また、大統領選の年は9月〜11月の投票日頃まで調整するというアノマリーがあり、今回金融政策転換期と重なることには要注意だろう。

エヌビディアなどテック銘柄を中心に利下げ期待が先行した米国株に対して、金融引き締めが取り沙汰される日本株は全く事情が違う。日本では利上げ観測が株価の上値を抑えている面があり、金融政策との関係では米国とは真逆の局面だ。今後米国の金融緩和は景気後退を伴うのに対して、日本の金融引き締めは確固たるデフレからの脱却と景気上昇が前提である。米国でリスクオフの動きになればハイテク株を中心に短期的な影響はあるだろうが、長期的視点に立てば、

日本株の優位性や割安感が再評価される可能性がある。

バリュエー銘柄の押し目狙い。個別にはキリンホールディングス(2503)、日清食品ホールディングス(2897)、NIPPON EXPR ESS ホールディングス(9147)など。



仕掛けやすい週

まだ日柄調整が必要

先週の日経平均は前週末比約196円高と3週間ぶりに上昇したが、寄り付きが高かったため週足では陰線となった。先週、今週と世界的に中銀ウイークとなっており様子見ムードが強かった。

5日にカナダがG7で初めて政策金利を0・25%引き下げたのに続き、6日にはECB理事会が4年9か月振りに政策金

利を0・25%引き下げた。今週はFOMCが11日と12日に開催され、日銀金融政策決定会合が13日と14日に開催される。世界的に政策金利引き下げムードが漂っているが、市場の予想では今回のFOMCは据え置き予想が多い。一方、日銀金融政策決定会合では金融政策正常化に向けて国債買入れ額の減少などの修正

があり注。各国が政策金利引き下げに転じる中で我が国の金融政策が正常化に戻ったことを示すことには為替に重きをおく必要がある。4月の実質賃金もマイナス0・7%となり、マイナス期間は25か月連続で過去最長となった。需要拡大による物価上昇ではないので、金利を引き上げる事はスタグフレーションを招く懸念も多いが、やはりこれ以上の円安は日本にとってマイナスである。

意が必要である。カナダやECBが利下げに転じて円安のトレンドは変わっていない。円安による物価上昇は賃上げ率よりも上回っており、4月の実質賃金もマイナス0・7%

日経225先物の日足チャート



決定会合は要注目である。

日経平均は3万8500円を中心に3万9000円台に入れば売られるし、3万8000円に近づけば買いが入る展開である。米ナスダックやS&Pが最高値を更新していることを勘案すると物足りない感じはする。

3万9000円台を固めるにはまだ日柄調整が必要なようだ。今週は6月メジャーSQ週である。仕掛けやすい週でもあるので、FOMCや日銀会合の観測報道などでボラテイルティが高くなることも想定しておきたい。

今週のレンジは3万8000円と3万9200円を想定する。(ハチロク)

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話



ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。



今週は日銀会合(日本銀行本店)

ドル円の日足チャート



4日の日銀政策

星野三太郎の株街往来

～AIフィーバーから目が覚める～

短期的に乱高下しているのは、エヌビディアの株価は高値圏を維持しているが、昨年からAIブームによる半導体関連株物色はアドバンステストなどの主力株の動きを見る限り一旦は終焉を迎えたのかなと思う。

AIの話題を幾度となくニュース欄で取り上げてきた筆者もそれを実際に使っていないなかったが、つい最近になってAI議事録作成アプリをスマホにインストールして取材時に使用するようになった。1時間程度の音声を録音して、その内容をAIに議事録かインタビューなどを指定すると約5分で希望の内容に最適化して文字化してくれる。

長時間の取材内容だと今までは録音した内容を何度か聞き直して執筆していたが、AIがその手間を省けてくれるというわけだ。これからAIはさらに進化していくとは思いますが、人間が執筆しなくなる特徴の無い内容になってしまおう。そう考えるとこれまでAI関連株に酔いしれていたが、一旦はそこから距離を置いて、AIと人間の良い付き合い方を考え直してから再度物色しても良いと思う。



New product

カルビー 夏限定ポテトチップス発売
暑い時期にも食進む味わい



夏ポテト

カルビー（2229）は穫れたてのみずみずしい国産の新じゃがのみを使った、この季節にしか味わえない特別な厚切りポテトチップス「夏ポテト 対馬の浜御塩（はまみしお）味／紀州の南高梅（なんこううめ）味」を6月10日から全国で期間限定発売する。

今年の「夏ポテト」は、こだわりの素材を使った2種類のフレーバーを用意。昨年、顧客から好評だった「対馬の浜御塩味」は味わいをそのままにしているが、「紀州の南高梅味」については梅の風味をより感じやすく改良。「夏ポテト」らしいさっぱり爽やか感は維持し、暑い時期にも食べ進む味わいに仕上げた。季節や旬のおいしさに関心の高い20～30代の女性をターゲットにしている。オープン（想定価格は税込み190円前後）で、9月上旬に終売を予定している。

ローター社2回目の取得

ハリマ化成G

EcoVadisゴールドメダル



EcoVadisゴールドメダルは、国際的な標準に基づいた独自の基準による評価です。

ハリマ化成グループ（4410）の主要子会社ローター（LAWTER）はEcoVadisゴールドメダルを取得した。

信頼性の高い機関で、180カ国、200業種、13万以上の企業・団体を調査対象として成長やイノベーションの促進に加え、ビジネスの透明性向上を図ってきた。ローター社は印刷インキ用樹脂と粘着剤用樹脂を主力製品として、米国やヨーロッパを中心に事業を展開しており、環境、論理、労働と人権、持続的な資材調達、4つの基準で高い評価を受けた。ローター社のゴールドメダル取得は2018年に続いて2回目の対象企業のうち上位5%に位置することを意味する。

企業レター

潮流

エヌビディア一人勝ち

高成長株でも調整は訪れる

marKet/bAnk



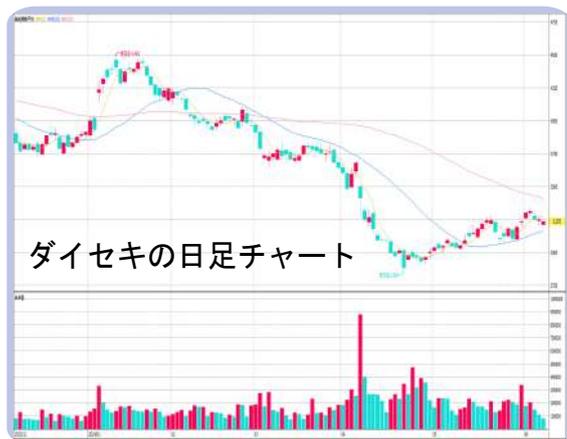
5月28日の米ナスダック総合株価指数は1万7032ポイントまで上昇し、

過去最高値を更新した。

この日の米国市場は利下げの開始時期が遅れることを警戒して長期金利が上昇し、ダウ平均が一時360ドル下落する場面があった。本来、金利上昇で売られるのはダウ平均よりもハイテク株の多いナスダック総合株価指数の方である。なのに逆行高となっている要因は、生成AI（人工知能）用半導体をほぼ独占する米エヌビディアの株が連日上昇しているからだ。

米オープンAIが「ChatGPT」を発表して1年半で株価は約7倍になった。特に5月22日の決算発表後の上昇スピードが速い。決算発表前の株価は949ドルだったが、僅か4営業日で1154ドルまで21%も上昇した。大型ハイテク株の代表であるGAFAM（アルファベット：旧グーグル、アップル、メタプラットフォームフォーム：旧フェイスブック、アマゾン、マイクロソフト）の株価は比較的堅調な動きをしているが、上値は重い。まさに、エヌビディア一人勝ちの様相である。

英フィナンシャル・タイムズ（FT）によれば、2023年11月～24年1月期のエヌビ



ディアの売上高は、マイクロソフト、メタ、アマゾン、アルファベットの4社で4

割を占めた。メタやアマゾンは半導体の内製化に取り組んでいるが、脱エヌビディアには時間がかかると株式市場は見ている。

ダウ平均は5月20日に4万0003ドルと初の4万ドル達成で過去最高値を付けた。

その後は3万8000ドル台まで下落しており、ナスダック総合株価指数と対照的である。ただ、エヌビディアが高成長株であっても株価の調整は訪れる。競争相手の出現や米経済の減速で大手ハイテク企業が設備投資を減少させるなど悪いことも起きるものだ。

また、エヌビディア以外の株価の下落が続くと利益が出ているエヌビディアを売却するといった動きも起る。エヌビディア1社でいつまでも相場を支えることは出来ない。また、日本株に売り圧力が強まっている。5月30日に日経平均は一時900円も下落し、3万7617円と3万8000円の大台を割れた。一番の要因は金利上昇だ。この日、長期金利は約13年ぶりに1.1%台に乗せた。金利から目が離せない。

潮流銘柄はダイセキ（9793）、日本光電工業（6849）、バイタルケーエスケーHD（3151）。

岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2022年1月の夕刊フジ主催の「株1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。
<http://marketbank.jp>

日本株にも売り圧力

記者の視点 相場見通し

日米金融会合通過待ち

ハイテク本格出直りに期待

6月1週の東京市場は日経平均で6日一時、3万9000円台まで上昇する場面があったが、その後は戻り売りに押し戻され、先週に引き続き膠着感の強い動きになった。

5月のADP全米雇用リポートでは非農業部門の雇用者数が前月比15万2000人増と伸びは4月から縮小し、市場予想を下回ったことに加え、6日発表の週間新規失業保険申請件数についても市場予想を上回ったこと、FRBによる早期の利下げ期待が再燃。これを受けて、ナスダックが3日連続して最高値を更新する動きになった。これを受けて、東京市場も連動して半導体関連を中心に買われる動きになったが、相変わらず戻り売りに押される動きで日経平均では3万8000円台前半から3万9000円近辺でのレンジ内での動きに終始している。今週は11日から米国でFOMCが開催され、12日にパウエルFRB議長の会見、13日から日米金融政策決定会合が開催され、14日に植田日銀総裁の会見が予定されている。FOMCは現状維持がコンセンサスでパウエルFRB議長が利上げ時期にどれだけ踏み込んで発言するか注目される。一方、日銀金融政策決定会合では国債の買い入



れ減額が事前報道されているが、直近で10年債は1%割れまで低下しており、現状では警戒感は薄い。国内の景況感が不透明であることから利上げには慎重意見も多く、日銀会合通過後はも想定される。個別ではスコピオン・キャピタルのネガティブなレポートを受けてレーザートック(6920)が急落したが、会社側が反論コメントを表明したことで買い戻しの動きも出てきた。同社株を含めてハイテクの本格出直りを待ちたい。

編集後記

中小型グロース株によく底入れの兆しが見えてきた。グロースコア・250指数とも切り返しても25日線に上値を抑えられる状況が続いているが、米長期金利に連れ国内金利も低下しており、日米中銀会合を無難に通過すれば本格反騰の可能性があるだろう。アストロHDのIPOは期待外れながら、宇宙デビューの数は23年時点で1億3000万個に上り、人工衛星は30年までに2万基の打ち上げが予定されている。有望銘柄をピックアップして、リバウンドへ準備をしておきたい。

ポルトでは非農業部門の雇用者数が前月比15万2000人増と伸びは4月から縮小し、市場予想を下回ったことに加え、6日発表の週間新規失業保険申請件数についても市場予想を上回ったこと、FRBによる早期の利下げ期待が再燃。これを受けて、ナスダックが3日連続して最高値を更新する動きになった。これを受けて、東京市場も連動して半導体関連を中心に買われる動きになったが、相変わらず戻り売りに押される動きで日経平均では3万8000円近辺でのレンジ内での動きに終始している。今週は11日から米国でFOMCが開催され、12日にパウエルFRB議長の会見、13日から日米金融政策決定会合が開催され、14日に植田日銀総裁の会見が予定されている。FOMCは現状維持がコンセンサスでパウエルFRB議長が利上げ時期にどれだけ踏み込んで発言するか注目される。一方、日銀金融政策決定会合では国債の買い入

当面のスケジュール

- 10日 1-3月期GDP改定値
5月景気ウォッチャー調査
- 11日 5月マネーストック
5月工作機械受注
FOMC(~12日)
- 12日 5月国内企業物価指
中国5月生産者物価、中国5月消費者物価
米5月消費者物価
パウエルFRB議長会見(経済見通し発表)
- 13日 日銀金融政策決定会合(~14日)
4-6月期法人企業景気予測調査
G7サミット・拡大会議(~15日イタリア)
- 14日 植田日銀総裁会見
4月第三次産業活動指数
メジャーSQ算出日
- 17日 4月機械受注
中国MLF(中期貸出制度)金利
中国5月工業生産、中国5月小売売上高、中国5月都市部固定資産投資
- 18日 米5月鉱工業生産・設備稼働率
- 19日 4月25・26日開催の日銀金融政策決定会合議事要旨
5月貿易統計
5月訪日外客数
- 20日 中国ローンプライムレート
- 21日 5月消費者物価
米6月S&Pグローバル米国製造業PMI
米5月中古住宅販売件数

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。